

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [本間 義隆]

学年・組・番号 [3 年 D 組 24 番]

研究課題： 飯縄神社関係文書からみた飯縄信仰の近世的変容
——中近世における信濃・越後を中心とした山岳修験ネットワークの歴史学的考察

(英文) From Medieval to Early Modern: The Transformation of Iizuna Shrine and the Development of Shugendō Networks in the Inland Region of Central Japan

研究概要：

本研究は、長野県飯縄山から発生した飯縄大明神への山岳修験の歴史的展開について、とりわけ戦国期から近世初期にかけての中近世移行期における信仰組織の動向と変容過程に焦点を当て、中世社会史研究や宗教民俗学、中近世移行期研究、山岳修験研究の先行研究も踏まえつつ、筆者らが学院での三年間に収集してきた飯縄神社関係文書及び地域の修験資料の歴史学的解明を試みたものである。研究の過程において発表された論文では、中世社会を舞台に、地方山岳霊場である飯縄山と周辺の修験道組織が、独自の在地信仰圏を形成し、地域社会と密接に関係していたことを明らかにした。さらに、その信仰圏は現在の県境を越えて広く北陸道に分布しており、巡拝路に沿った「修験ネットワーク」が形成されていたことが判明した。これらの意義付けにより、研究成果は、飯縄山の山岳信仰史研究だけにとどまらず、広く歴史学研究にも資するものとなったと考える。

研究成果：

本年度の研究成果として以下に記した論文、口頭発表、ポスター発表等を実施した。本研究の成果の一部を、板橋区教育委員会が公募する令和 7 年度「第 24 回櫻井徳太郎賞高校生の部」に応募し、同部門において「最優秀賞」を受賞した。また、第 75 回学院祭において、民俗学プロジェクトが本研究の成果を中心に展示・解説を行い、学院祭有志団体「学術賞」を受賞した。

・論文「飯縄信仰と中世社会——中近世移行期における分裂・移住・再興の歴史的意義」（『早稲田大学高等学院論文・作品集（2025 年度）』早稲田大学高等学院、2026）

・論文「飯縄信仰と中世社会——分裂・移住・再興の史的考察」（『歴史民俗研究 第 24 回櫻井徳太郎賞受賞論文・作文集』板橋区教育委員会、2026）

・論文「飯縄神社と水運——長野県犀川水系をめぐる在地信仰圏の形成に関する一考察」（『令和 7 年度早稲田大学高等学院民俗学プロジェクト研究紀要』民俗学プロジェクト、2025）

・論文「早稲田大学高等学院民俗学プロジェクト収集飯縄信仰関係史料集成」（『令和 7 年度早稲田大学高等学院民俗学プロジェクト研究紀要』民俗学プロジェクト、2025）

・口頭発表「地方山岳修験の在地信仰圏——飯縄信仰からみる北信濃の中世社会」（2025 年度学芸発表会）

・ポスター発表「地方山岳修験における信仰圏——飯縄修験からみる北信濃山岳信仰の歴史的展開」（第 75 回学院祭）

・ポスター発表「飯縄信仰と中世社会——中近世移行期における分裂・移住・再興の歴史的意義」（第 75 回学院祭）

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研 究 者 :

研究代表者 本間 義隆

研究分担者 勝田 英翔 姉帯 蒼哉 藤沢 颯太

担当教諭 松澤 徹

(受給額: 35,000 円)

研究成果写真 :



写真1: 霊仙寺湖から望む冬季の飯縄山 (2025 年 3 月 26 日筆者撮影)

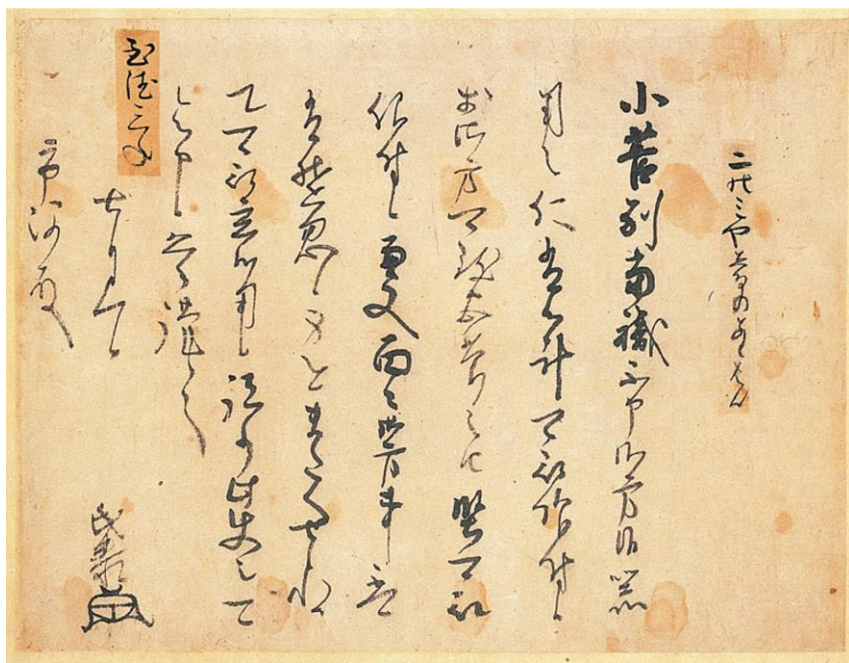


写真2: 至徳三年七月一日付「二宮氏泰書状」(『市河文書』)